

市史普及啓発活動3小学校講座終了！

- ①1月25日(木)足摺岬小 3～4年生「昔の道具・万次郎」講座
- ②1月27日(土)下ノ加江小全校参観日「校区の歴史」講座
- ③1月29日(月)清水小 6年生「万次郎」講座



↑ 清水小学校 6 年生で実施した中浜万次郎講座の閉講式の様子。

①では、足摺岬小学校 2 階図書室で 3～4 年生を対象に 2～3 校時「昔の道具」と「中浜万次郎講座」を実施した。昔の道具では、今と昔の道具を比較し、どのようなことが便利になったかを確認。その後、今と昔では、どちらが充実しているかを考えた。「中浜万次郎講座」では、あしずり港に置かれた「萬次郎少年像」を教材にして講座を展開した。同じく③の清水小学校「中浜万次郎講座」でも足摺岬小とほぼ同じ内容で講座を展開した。

ここで、あしずり港の北側に建立されている「萬次郎像少年」についてお話し

したい。この像は、高知県内で多くの銅像を制作している浜田浩造(故人)によって造られた。銅像はどんな場面を表現したのだろうか。

銅像は、天保12年(1841)1月14日(旧暦)、万次郎ら5名が絶海の孤島「鳥島」へ上陸した場面を表現したものである。それこそ生きるか、死ぬか、命がけの場面である。筆之丞(伝蔵)・重助・寅右衛門・五右衛門・万次郎、この中で約10年後の嘉永4年(1851)1月3日に琉球小渡浜(現在の大度浜)に上陸し、帰郷できたのは、筆之丞(伝蔵)・五右衛門・万次郎の3人である。重助はケガがもとで亡くなりハワイに永眠。寅右衛門は、直前まで帰国するかどうか悩んだが、ハワイで妻と子ができて留まる道を選んだ。



下ノ加江小学校は今年度末をもって、開学151年の歴史に幕が下ろされる。学制発布の翌年、明治6年(1873)に猪熊家範によって小方の田村遠平旅館の位置に建てられた「月江学舎」が、「下ノ加江北小学校」となり、これが現在の下ノ加江小学校の前身である。大正9年の台風に伴う水害により現在の位置(下ノ加江481)に移動した。



↑下ノ加江小学校の歴史講座の様子

②では、全校児童とPTAの皆さんに受講いただいた。内容は、「校区の歴史」「小学校に所蔵されている学校資料や動物の剥製等の紹介」「市野瀬地区に所在する真念庵」について約1時間にわたり講話を実施した。